

高等学校第1学年 外国語科 学習授業案

奈良教育大学 英語教育専修 前田 桃香

1. 単元名 論理表現 I 「Short trip to Nara !」

(Vision Quest English Logic and Expression I L10 関係詞 L11 比較 を学習済)

2. 単元の目標

- ・学習した文法の理解を基に、ツアーガイドに関する説明を聞いたり読んだりして、概要や要点、詳細を伝えるときにも、その内容や言語材料を活用して自分の考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合うことができる。(知識・技能)
- ・聞き取ったガイドの内容を自分の使用できる語彙や表現などを用いて再現したり、自分の地域のおすすめスポットを英語で紹介したりすることができる。(思考力・判断力・表現力)
- ・自分の地域の文化財や建造物に興味を持ち自ら調べようとする姿勢をもち、それらについて得た情報を伝えようとするすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、これまで学習した関係代名詞・比較表現を含んだ文章を聞いて理解し、それらを用いた英文を書くことができるようになることを目的としている。奈良のガイド活動を模擬的に体験することにより、他者に情報を広げることで地域の魅力の発信に繋がることを学ぶ。

教師自身が歴史的に価値のある文化遺産のある奈良の地で、外国人観光客に向けてガイドをした経験について語る。そして生徒にも自分の地域について考えるきっかけを与え、同様に自分の地域についても発信へとつなげることでできる有効な教材である。

(2) 指導観

興福寺や東大寺の詳しい情報についてのツアーガイドの話聞きながらメモを取り、それを基にツアーガイドの内容を他者に伝えるリテリングの活動を主としている。奈良の文化遺産を糸口に、地元の文化へと視点を向けるきっかけとする。ワークシートには空所を補充する箇所のほか、自由に書き取る空欄へのメモを設けることで、英語で自身の言いたいことを伝える表現力を育成することをねらいとする。

本単元の指導において、以下の事項を意識する。

- ・授業中の指示や発問には Classroom English を豊富に使用し、教師がモデルとして見せるツアーガイドには目標文法を含む。興福寺や東大寺の仏像の説明で関係代名詞を用いたり、大きさや高さを示す際に比較の表現などを用いたりする。
- ・教師はジェスチャーや視覚資料等を取り入れて授業の理解を促す。難しい表現には日本語によるサポートも適宜取り入れる。
- ・生徒が親しみやすくなるようなテーマを取り上げ、自然と授業に入っていけるような構成を心掛ける。生徒が楽しむためにはまず教師自身も楽しんで英語を発話することを大切にする。
- ・教師が一方的に話す授業を避け、生徒が主体となり対話する場を設けるように心がける。教師がツアーガイドをする際にツーリスト役である生徒に発問や質問を投げかけ、主体的なアクティビティの時間を取る。

(3) ESD との関連

- ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

【多様性】

様々な重要文化財が奈良に存在することを授業の中で気づく。授業内では興福寺と東大寺にしか触れないが、授業の導入部において多数の「奈良と言えば」と箇所が多数挙げられていた。それらについても焦点を当て、そして自分たちの住む地域にも同様に価値のある文化財や建築物にも目を向ける。それらについての情報や紹介活動などを経て価値に気付く。教員が紹介した奈良や自身の地域は勿論、各地における固有の価値あるものを大切にする姿勢を養う。

【責任性】

まず、自分たちが暮らしている地域の貴重な文化財等に目を向けて関心を向ける。そして文化財の重要性に気づき、伝えていく必要があることへと学びを進めてゆくことが重要である。

- ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

【コミュニケーションを行う力】

ペアの生徒にガイドをする際、上手く伝わっているかどうか気を配りながら説明をする。

【進んで参加する態度】

地元について関心を持ち、情報を手に入れようと調べ学習を行う。そして最終的には自分たちの地域の魅力を進んで発信する。

- ・本学習で変容を促す ESD の価値観

【世代間の公正】

価値のある文化財や建造物等の良さを、自分達とは違う年代や地域の人々に伝えていく。

【人権・文化を尊重する】

日本古来の文化に関わる文化財や建造物などに興味を持ち、それらを大切にしようとする。

- ・達成が期待される SDGs

【目標 11「住み続けられるまちづくりを」】

自分たちの地域についての知識を得ることで、知り得た文化を自らが継承してゆく態度を養う。実際に奈良のツアーガイドを聞いた後に、自らの地域を振り返って話してみることは、地域の一員となって魅力を発信するためのはじめの一歩となる。

4. 単元の評価規準

(1) 外国語科における評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①学習した関係代名詞や比較表現の理解を基に、ツアーガイドの内容を整理し、要点を捉えてメモに書くことができる。	①ペアの人にツアーガイドの内容を適切に表現してわかりやすく伝えている。	①ジェスチャーなどを用いてペアの人にツアーガイドの内容をわかりやすく伝えようとしている。

②既習の語彙や表現を用いて、自分の言いたいことや調べた内容を書くことができる。		②他言語との差異を通じて異文化理解の姿勢をもとうとしている。
---	--	--------------------------------

(2) 総合的な探究の時間における評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
③情報機器を適切に用いて情報を収集したり、発表資料を作成したりすることができる。	②必要な情報を集めて整理する力を持っている。	③奈良のことを知り、自分たちの地域について関心をもとうとしている。

5. 単元の指導計画（全3時間、外国語科と総合的な探究の時間を関連させて行う）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良についてのイメージを聞く ○教師による興福寺と東大寺についてのガイドを聞く。 ○聞き取ったツアーガイドの内容を英語でまとめる。 ○リテリング活動（聞き取った内容を自分の言葉で表現する。） ○地元の観光地、おすすめスポットについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞や比較表現が使われていることを意識させる。 ・ワークシートに記入のため、説明の最中にはメモを取るよう指示する。 ・配布した写真を用いてそれに説明を加えていくように指導する。 ・ペアの人におすすめスポットとその理由を話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ア① イ① ウ③
2	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の地域についての調べ学習 <ul style="list-style-type: none"> ・地元の紹介したい場所について知識を得る。写真などの資料を含むパワーポイントも準備する。 ○地元の魅力を外国人に説明する場合を想定して、英語で原稿を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明などをメモするよう指示する。（日本語でも可） ・翻訳などに頼るのではなく自力で訳すように心がけさせる。 ・翻訳による言語の差異についても言及する。 	<ul style="list-style-type: none"> ア③ イ② ア② ウ②
3	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で、英語で地元のおすすめスポットを紹介し合う。 ○全体共有 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に「○○（都道府県名）ツアー」としてクラスの生徒全体をツーリストとしてガイドをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ一案は持ちよるようにして、グループ全員が担当するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ①